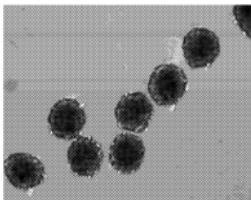


慶應大学発ベンチャーのハートシード（東京・渋谷、代表：西祐太郎社長）は、iPS細胞の実用化に挑んでいる。

ハートシードは、心不全の死因数（15年は全国7万人）人工心臓や臓器移植は患者や家の負担が重く、新しい治療へのニーズは強い。iPS細胞の研究で著名な福山教授が開発した細胞だけを大量に作る技術を確立した。培養設備は来年までの完成を見込み、2018年にも医師主導の治療をスタートさせる考えだ。効果を検証したうえで、心臓への心筋細胞の移植を目指す。

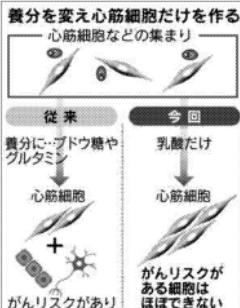
福田教授は、「心筋細胞を再生するための様々な特許は、同社を移管している。河西社長は、「この技術を確立した会社だ。」

慶大発VBのハートシード



福田教授らが開発した心筋細胞。約千個の心筋細胞を塊にして、定着率を高めた

iPS細胞 大量に培養



技術確立、安定供給へ

心臓に移植道筋

慶應大学医学部の信濃町キャンパスの一角、ハートシードの心臓部となる細胞の培養装置の最終調整が進んでいる。全自动、完全無菌状態で人間の心筋細胞を作り出す。従来の半分以下の約1カ月で、現時点でおよそ8人の細胞を同時に培養できる技術を開発し

た。心筋細胞は「細胞移植にかかるリスクがある。これ活性化するが、心筋細胞ある分化しない細胞の発現率を、検出限界（0.1%未満）に抑えた。」

福田教授は「細胞移植にかかるリスクがある。これ活性化するが、心筋細胞ある分化しない細胞の発現率を、検出限界（0.1%未満）に抑えた。」

福田教授は「細胞移植にかかるリスクがある。これ活性化するが、心筋細胞ある分化しない細胞の発現率を、検出限界（0.1%未満）に抑えた。」

福田教授は「細胞移植にかかるリスクがある。これ活性化するが、心筋細胞ある分化しない細胞の発現率を、検出限界（0.1%未満）に抑えた。」